宗教的悪から 限界意識のスピリチュアリティへ

日本東アジア実学研究会 2023年2月25日(木)

東京自由大学学長・大正大学客員教授 東京大学名誉教授・上智大学グリーフケア研究所客員所員 **島薗 進**

I. 大本教と「悪」

[悪にまつわる語の頻出]

近代日本の名高い民衆宗教者であり、大本教の創唱者の一人である出口なお(1836-1918)の「筆先」には「悪」にまつわる語が頻繁に登場する。

三ぜん世界一同に開く梅の花、艮(うしとら)の金神の世に成りたぞよ。梅で開いて松で治める、神国の世になりたぞよ。日本は神道、神が構はなけの国であるぞよ。外国は獣類(けもの)の世、強いもの勝ちの、悪魔ばかりの国であるぞよ。日本も獣の世になりて居るぞよ。外国人にばかされて、尻の毛まで抜かれて居りても、未だ目が覚めん暗がりの世になりて居るぞよ、是では立ちては行かんから、神が表に現はれて、立替へ立直とを致すぞよ。に国は立ちては行かんから、神が表に現はれて、立替へなりである。(明文の世に替入ては行いたのである。)第一巻、一三ページ、なお本稿の引用文のゴシック体はすべて島薗がしるしづけのために付したものである。)

これは出口なおが初めて神がかった一八九二年に口をついて出たとされる「筆 先」で、「初発の神諭」とよばれるものである。 ここでは、「外国」が「悪魔」や「暗がり」の原因と見なされている。だが、 それは「強いもの勝ち」とか「獣類(けもの)の世」とも言われるように、 「日本」のただ中の抑圧的暴力として存在している。私たち自身が悪に関わり、 悪に苦しんでいるのだ。だが、その悪の支配は「立替へ立直し」によって覆され、神国に生まれ変わる可能性がある。なおの神はそう告げている。

この世の鬼を往生させて、世界のものを安心させるぞよ。**よい**心をもたれよ。 悪はなごうはつづかんぞよ。/(「/」は原文改行の意)ほととぎす声は聞け ども、すがたは見えぬ、この世を金神、かげから守りておりたぞよ。/いまま では**末法**の世。妙見仏の世、**悪道な**世、**強いもの勝ち**の世、この世になれば**結 構な**世になるぞよ。(明治二十五年日不明、同上、一五ページ)

[なぜ悪にこだわったのか]

理想世界の到来の預言。まずは「悪き」心から「よい心」への改心を求める。

世界のあらためいたすぞよ。あまり人民の**心が悪き**ゆえに、世界は神の眼からは、さっぱり**暗やみ**になりておるぞよ。洗濯いたして良くなるぞよ。はよう改信いたされよ。/人にも**よき**よう、わが身も**よき**ようと思わな、この世はいけぬぞよ。**強いものがちの世**であるぞよ、これではこの世はいけぬぞよ。(明治二十九年七月十六日不明、同上、一五ページ)

安丸良夫もいうように一時なおが深く関わりをもった金光教においては、終末観や千年王国的な危機預言のメッセージは乏しかった(『出口なお』)。とかし、天理教においては終末観や危機預言につながるようなメッセージが含まれており、信仰熱心な信徒の心を揺さぶっていた。中山みきの残した神的メッセージの中でも『おふでさき』においては終末観や危機預言が顕著に語られ、この世において善と悪の力がせめぎあっているという認識が示されている。除去しがたい悪が人類を脅かしており、破局的な危機が間近に迫っているという。中山みきの場合、それは「にほん」(善の勢力)と「から」(悪の勢力)の対決として表象されている。このような表象が出口なおの終末観や危機預言に影響を及ぼしたことは疑えない。

だが、天理教の場合、悪の認識は限定的なものにとどまっていた。今見てきたように確かに『おふでさき』においては、悪との対決に多くの言葉が費やされている。危機的な事態の切迫や悪から善への劇的な転換(「今まで/これから」)を告げる言葉も少なくない。ところが、日々の「すわりづとめ」、また月次祭での「おつとめ」で唱えられる『みかがうらうた』(一八六六—六七年)では、悪は心のなかの「ほこり」として個々人の努力によって払うことができるものであり、除去不可能な重みをもったものではない。信仰実践(おつとめや心なおし)を通して神人和楽の「陽気ぐらし」が実現できるという明るいトーンが優勢である。

[なおの悪の理念の特徴]

出口なおは前生から引き継いだ罪業や強い「我」をもつための苦しみといった個人的な要因に基づく悪の観念を確かに保持していた。これは日本の仏教や民俗宗教、そして天理教や金光教にも受け継がれてきた悪の観念だった。だが、出口なおの場合、さらに悪の登場と克服に関する神話と危機預言が付け加わっている。そしてそのことによって悪が個人的な関心事であることを超えて、世界の歴史に深く関わる事柄であり、人類全体がともにその克服を願うものとして意識されることとなった。この転換は、個々人の外から悪がやってくること、世界の側に由々しい事柄として悪の優勢という事態が生じていることの認識と関わっていた。

なおが宗教的神話的な悪の理念を濃密に語ったことは、なおが社会悪を、つまりは構造的暴力を如実に実感していたことと関わりがある。他方で、なおは天理教や金光教が保持し続けたような楽観的な人間観、世界観も保持し続けた。なおは世界への原初的な信頼を保ち続けたといってよいだろう。それはなおが夫の政五郎や多くの子供たちと比較的良好な関係を育て、維持してきたことと関わりがあろう。なおの悪の理念は伝統的な救済宗教の宿命論的な悪の理念を土台にしながらも、生を肯定し、社会悪の認識を深めるような悪の理念である。なおの言葉が二〇世紀の多くの日本人を魅了したのは、こうしたなおの悪の理念の特徴と関わりがあると思われる。

Ⅱ. 現世の中での救い―仏教系新宗教

- ・19世紀初め~1970年頃に最大の発展期
 - ◎黒住教、天理教、大本教、霊友会、生長の家、PL教団、立正 佼成会、創価学会、真如苑
- 生命主義的救済観――宇宙の本体は生命。人間は宇宙的生命の支流。 神仏は生命の根源=宇宙大生命。
- この世で宇宙的生命と一体となり、生命を開花させることが救い。

• 立正佼成会 • 概要

立正佼成会は法華三部経を所依の経典とする在家仏教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

庭野日敬(1906-1999)

「〈仏〉とは、**宇宙の大生命**です。この世のすべてのものを存在させ、動かしている根源の力です。」

「われわれの住む宇宙というものは、**常に無数の衰滅と創造が繰り返され、それらが大きく調和している生きた世界**なのである。」

「もし、すべてのものが変化をやめたら、それは永遠の死を意味する。**変化があればこそ流動があり、流動があればこそ生命があり、創造もありうる**のである。」

「宇宙生命を本体とする人間の生命は永遠のものである。死は生命の消滅を意味しない。「たいていの人は、現在ここにある肉体が死ねば、自分は消滅するのだと考えているようです。それは、目に見えるものしか実在しないとする錯覚に基づく考えです。/水が蒸発したら、水は無くなってしまったように見えますが、けっしてそうではなく、水蒸気となって存在しているのです。それがまた、いろいろな条件によって雨・雪・露・霜となって目に見えるようになります。

それを「無くなった」とか「生じた」と見るのは錯覚であって、「形を変えた」というのが真実なのであります。/人間の生命もそのとおりであって、無くなることはないのです。無から有は生ずることなく、有が無に帰することはありません。ですから、人間も、形を変えることはあっても、消滅することはありません。無限の過去から永遠の未来まで生き通しのものなのであります。」(『永遠の生きがい』)

創価学会・概要

創価学会は、大乗仏教の真髄である日蓮大聖人(1222~1282)の仏法を信奉する団体です。

その目的は、仏法の実践を通して、**一人一人が真の幸福境涯を確立するとともに、生命の尊厳を説く仏法哲理を根本に、恒久平和、豊かな文化、人間性あふれる教育の創造を推進し、人類社会の発展に寄与する**ことにあります。

1930 (昭和5) 年の創立以来、日本では827万世帯、海外にも192カ国・地域の会員が日蓮大聖人の仏法を実践し、各国の繁栄と平和を願い、活動しています。

「創価」とは価値創造を意味しています。その価値の中心である「生命の尊厳」の確立に基づく「万人の幸福」と「世界の平和」の実現が、創価学会の根本の目標です。

戸田城聖(1900-1958)

『戸田城聖先生論文集』(1960年)

「偉大な生命力を把持するならば、これらを苦縛とせず、楽しみとすることができる。すなわち、これを解脱というのである。**偉大な生命力こそ、我々の生活にとって、かくべからざるものであって、これが御本尊様を信ずることによってえられるのであるから、大利益**である」「されば、大御本尊様にむかって、この御本尊様と大聖人様と自分とが区別がないと信じて、そのありがたさを心にしみて感謝申しあげ、熱心に題目を唱えるとき、宇宙のリスムとわがリズムと調和して、宇宙の大生命が即わが生命とつらなり、偉大な生命力が涌現してくるのである。

しからば、**成仏とは**いかなることか。とうてい、われわれ凡愚には、このご境涯は説くあたわずとはいえども、各自の信心の智解の千万分が一ともならんかと思って説いてみる。

永遠の幸福を獲得するということである。」

|われわれの生命というものは、 この世限りのものでは絶対ない。 ……/成仏の境涯をいえば、い つもいつも、生まれて、力強い 生命力にあふれ、生まれてきた 使命のうえに、思うがままに活 動して、その初期の目的を達し 誰にもこわすことのできない福 運をもってくる。このような生 活が何十度、何百回、何千回 何億万べんと、楽しく繰り返されるとしたら、さらに幸福なこ とではないか。この幸福生活を 願わないで、小さな幸福にガツ ガツしているのは、かわいぞう というよりほかにない。



Ⅲ. 統一教会と悪

◇文鮮明(1920-2012)の生家と少年期

『平和を愛する世界人として 文鮮明自伝』創 芸社、2009年(韓国語版も同年)

◎平安北道定州郡徳彦面(トゴンミョン)上思里(サンサリ)

「日本占領期の頃、満州に避難する人々が通った町が平安北道の宣川(ソンチュン)です。わが家はちょうど宣川に行く一級道路(幹線道路)の近くにありました。家も土地も日本人に奪われて、生きる手立てを求めて満州に向かった避難に、わが家の前を通り過ぎていきました。母は八道の各地からやって来て家の前を通る人のために、いつもご飯を作って食べさせました。」p22



「曽祖父文禎紇(チョンフル)は高祖父文成学(ソンハク)の息子で、三兄弟の末弟でした。曽祖父にも致國(チグク)、信國(シングク)、潤國(ユングク)の三兄弟の息子がおり、私たちの祖父は長兄に当たります。」

「末弟の潤國(ユングク)大叔父が家の財産を抵当に 取られて、すっかりなくしてしまったからです。それ からというもの家族、親族の苦労は並大抵ではありま せんでした。しかし、祖父も父も潤國大叔父を一度も 怨みませんでした。なぜなら、賭博に手を出して財産 を失ったわけではなかったからです。**大叔父が家の財** 産を担保にして借りたお金は、すべて上海臨時政府 (1919年4月に上海で組織された亡命政府。正式には 大韓民国臨時政府)に送られました。当時、7万円と いえば大金でしたが、大叔父はその大金を独立運動の 資金に使い果たしてしまったのです。



2009年

潤國大叔父は**朝鮮耶蘇教長老会神学校を卒業した牧師**です。英語と漢字に秀でたインテリでした。徳彦面(トゴンミョン)の**徳興(トクフン)教会**をはじめとして三つの教会の担当牧師を務め、崔南善(チェナムソン)先生などと共に**1919年の3・1独立宣言文を起案**しました。独立宣言文に署名するキリスト教代表16人のうち徳興教会の関係者が3人になると、大叔父は民族代表の立場を自ら降りました。

……故郷に戻ってきた大叔父は、万歳を叫んで街路にあふれ出てきた人々に太極旗数万枚を印刷して配りました。そして同年3月8日、定州郡の五山(オサン)学校の校長と教員、学生2千人以上、各教会信徒3千人以上、住民4千人以上で会合し、阿耳浦面(アジボミョン)事務所の裏山で独立万歳のデモを率いて逮捕されました。大叔父は2年の懲役刑を宣告され、義州の監獄でつらい獄中生活を送りました。」pp. 29-30

「私が10歳の頃、牧師である潤國大叔父の影響で、私たち一家は全員キリスト教に改宗しました。次姉と兄の精神的な病が按手祈祷を通して治癒したことから、猫頭山(ミョドゥサン)のふもとにある徳興(トクフン)長老教会に入教し、熱心に信仰生活をしたのです。その時から、私は真面目に教会に通って、礼拝を一度も欠かしませんでした。」p58

「15歳の頃、13人の兄弟姉妹のうち5人の弟妹が、わずか1年で相次いでこの世を去るという悲劇も経験しました。一度に5人もの子供を失った両親の傷ついた心は言葉で表現しようがありません。……

家族の苦難は民族の苦痛、世界の苦痛と無縁ではありません。次第にひどくなる日本の圧政とわが民族の悲惨な立場を見つめて、私の苦悩もただ深まるばかりでした。食べる物がなくて、人々は草や木の皮もあるだけもぐ取って、それを煮て食べるほどでした。……

そんなある日のことです。新聞で、私と**同じ年の中学生が自殺**したという記事を読みました。「その少年はなぜ死んだのだろう、幼い年で何がそんあにつらかったのか……」

少年の悲しみがまるで私自身の悲しみのように感じられて、胸が締めつけられました。新聞を広げたまま3日3晩泣き通しました。……

世の中でなぜこれほど異様なことが相次いで起こるのか、なぜ善良な人を悲しみが襲うのか、私には全く理解できませんでした。……教会で聞くみ言だけでは、生と死に関する疑問をすっきりと解くことができません。もどかしく思った私は、自然と祈りに没頭するようになりました。」pp60-

「15歳になった年の復活説(イースター)を迎える週でした。その目も、いつもと同じように近くの猫頭山(ミョドゥサン)に登って、夜を徹して祈りながら、神様に涙ですがりつきました。なにゆえこのように悲しみと絶望に満ちた世界をつくられたのか、全知全能の神がなぜこの世界を痛みの中に放置しておられるのか、悲惨な祖国のために私は何をしなければならないのか。私は涙を流して何度も何度も神様に尋ねました。

祈りでずっと夜を過ごした後、明け方になって、イエス様が私の前に現れました。 風のように忽然と現れたイエス様は、

「苦しんでいる人類のゆえに、神様はあまりにも悲しんでおられます。地上で天の御旨に対する特別の使命を果たしなさい」

と語られたのです。

その日、私は悲しい顔のイエス様をはっきりと見、その声をはっきりと聞きした。イエス様が現れた時、私の体はヤマナラシの木が震えるように激した。その場で今すぐ死んでしまうのではないかと思われるほどの恐れ、そして胸が張り裂けるような感激が一度に襲いました。イエス様は、私がやるべきことをはっきりお話しになりました。当p60-61

「イエス様に会った後、私の人生は完全に変わりました。イエス様の悲しい顔が私の胸中に烙印のように刻まれ、他の考え、他の心は全く浮かびませんでした。その日を境に、私は神様のみ言に縛られてしまいました。」p65

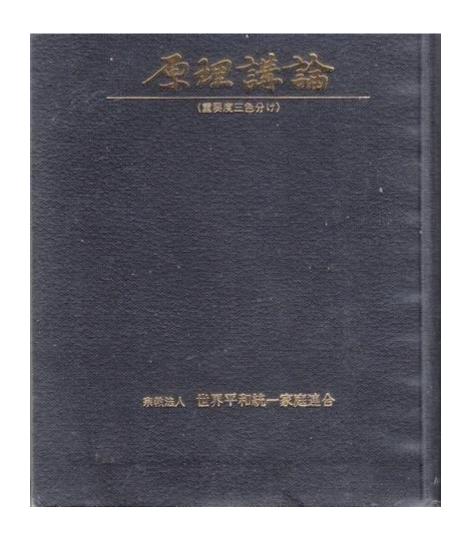
統一教会の教えと悪

◇悪の実在を強調する統一教会

『原理講論』(1967年版)第三章「人類歴史の終末論」

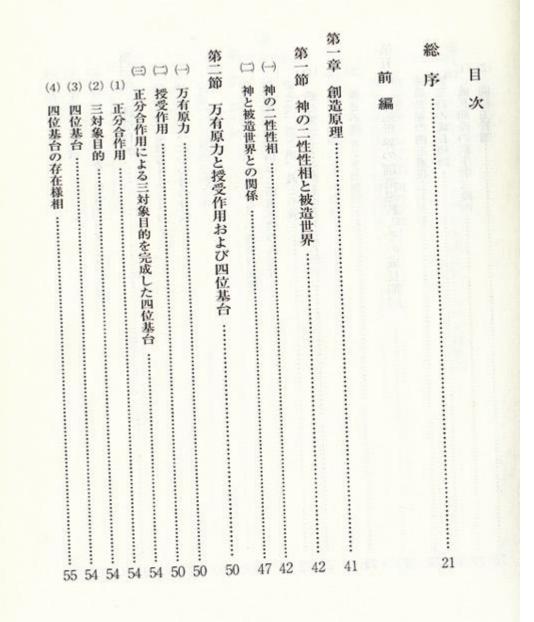
第一節「神の創造目的完成と人間の堕落」 pp. 136-7

「人間は堕落することによって神の宮となることができず、サタンが住む家となり、サタンとでといることができず、中体化したために、神性を帯びることができる。これが思った。これが即ち、堕落人間達が今までものであるが、これが即ち、堕落人間達が今まで住んできた地上地獄だったのである。」



1996

地獄の人間達は、神との縦的な関 係が切れてしまったので、人間と 人間との横的なつながりもつくる ことができず、従って、隣人の苦 痛を自分のものとして体恤(たい じゅつ) することができないため に、ついには、**隣人を害するよう** な行為をほしいままに天上地獄に **行くようになる**。このようにして、 人間は地上・天上ともに神主権の 世界をつくることができず、サタ **ン主権の世界を**つくるようになっ たのである。サタンを『この世の 君』(ヨハネ一二・31)、或いは 『この世の神』 (コリンとⅡ四・ 4) と呼ぶ理由は実にここにある のである。



◇『原理講論』(1967年版)「総序」pp. 27-28

「けれども、人間の努力をもってしては、如何ともなし得ない社会悪 がひとつある。それは、淫乱の弊害である。キリスト教の教理では、 これはすべての罪の中でも最も大きな罪として取り扱われているので あるが、しかし、今日のキリスト教社会が、現代人が陥って行くこの 淪落への道を防ぐことができずにいるということは、何よりもまた嘆 かわしい実情といわなければなるまい。今日のキリスト教が、そのよ うな世代の激流の中で、混乱し、分裂し、背倫の渦の中にまき込まれ て行こうとする数多くの生命に対して、手を束ねたまま何の対策をも **立てることができない**というこの現実は、一体何を意味するのであろ うか。それは、従来のキリスト教が、現代の人類に対する救いの摂理 において、以下に無能な立場に立っているかという事実を如実に証明 するものと見なければならないのである。」

文鮮明「聖酒式のみことば」『祝福』(1974年2月25日冬季号)

「堕落したんだからイエス様の体を受けることで新しい肉体を受肉しなければならない」

「堕落したんだから、汚れた血統を受け継いだのを復帰しなければならない。6千年の歴史を全て復帰するような式をしないと祝福まで帰ることができない。約婚式は、アダム・エバが約婚の時に堕落した、それを復帰しなければならない。堕落して汚れた血統を受け継いだ、その血統を転換しなければならない。これをしないと原罪が脱げないし、原罪を乗り越えないと真の子女として祝福される段階に上ることができない。原理がそうなっているんだね。堕落した原罪を脱ぐ血統の転換、血肉の交換がこの聖酒式である。」

「聖酒は何が入っているかというと、それは父母の愛の象徴が入っている。それから血が入っていないといけない。それを飲むと、父母の愛と一体となり血と一体となる。こういう内容が聖酒である」萩原、pp21-22

6わち復帰摂理歴史である ······· 140 140 138 ····· 140 140 138	□ 人類歴史はすなわち復帰摂理歴史である□ 復帰摂理の目的
埋 : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	第二節 救いの摂理
い完成	□ 人間の堕落・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
日的完成と人間の堕落	第一節 神の創造目的完成と人間
終末論	第三章 人類歴史の終末論
王管位に立たせるために	□ 人間を万物の主管位に立たせるために… 神のみ創造主であらせられるために □ 創造原理の絶対性と完全無欠性のために
神が人間始祖の堕落行為を干渉し給わなかった理由129	m
復帰	(二) 自由と堕落と復帰
落	第五節 自由と堕落
222	內 堕落性本性
121 12	(五) 単 幸る書き見る
卷 3	
ンの活動	人間世界に対するサタンの活
***************************************	サタンと堕落人間
の結果	第四節 人間堕落の結果
戒めが必要な期間	□ 信仰のための戒めが必要な期間
見た堕落	愛の力と原理の力から見
原理の力および信仰のための戒め12	第三節 愛の力と原理の力および
110 10	(2) (1 雲的堕落 :
的堕落	霊的堕落と肉的堕
人間との関係	○ 天使の創造とその使命および
機と経路	第二節 堕落の動機と経路 …
104 103	伍 罪の根

◇文鮮明『真の神様』文庫版、2011年 第四章「真のお父様の見た神様」pp. 245-246

「私たちの本当の父親は神様なのですが、サタンが父親に成り済ましています。それでヨハネによる福音書第八章四十四節でイエス様は、「その父の欲望どおりを行おうと思っている」ととがめられたのです。サタンの血を受けたという悔しい事実を知ったならば、憤りの思いがほとばしり、自分の体を刃物で刺し、汚れた偽りの血を出してしまうたいという義侠心が生じるべきです。そのように感じたことがありますか。「この肉の塊め」と体を打ちながら憤りを覚える人は、天の忠臣です。」(11-243、1961.10.29)p.240

「堕落しなかったならば、神様は創造主として永遠なる主人になるはずであったのに、**堕落することにより、サタンが主人となりました**。そうなるしかありませんでした。**いくら官吏の屋敷の箱入り娘だとしても、その町のやくざ者に強姦され、愛の関係を結んだとすれば、その娘は誰のものになるでしょうか。やくざ者のものとなります**。全く同じ道理です。

天国の王となり得るアダムであり、天国の王妃となり得るエバでした。」

「これを**復帰**するのは、創造の原理原則を中心としてなさなければなりません。本来、アダムとエバを中心として**永遠の愛の法度**を立てたので、その法度に従わなければならないのです。その法度を否定するならば、**天理を破壊**することになるのです。

それゆえ、人間はもちろん、神様自体まで否定される立場になるので、仕方なく再創造過程を通して収拾してきたのです。そのように**恨多き歴史路程**をを誰が知るでしょうか。」(207-272、1990.11.11)

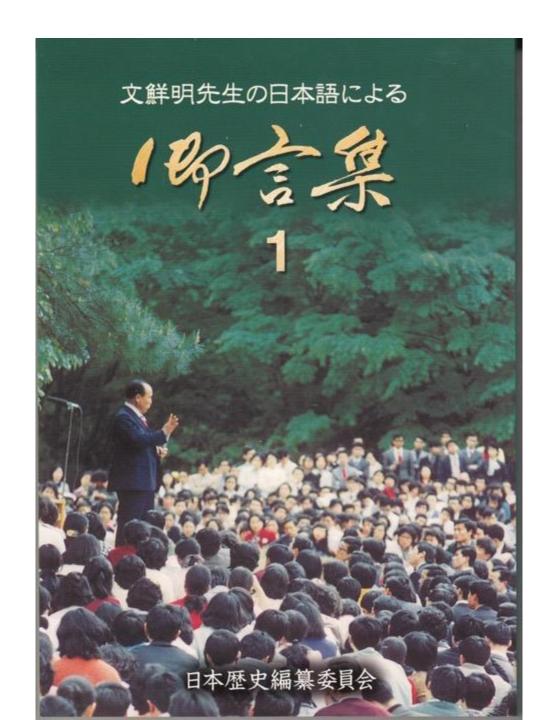


『文鮮明先生の日本語による御言集

1』(日本歴史編纂委員会、2001年、光言社)「神戸サタンの境に立っている 我々の責任」(1965年2月1日 名古屋教会)

日本と韓国

「韓国はアダムの立場に立っている。 そして日本はエバの地にあたる。本来、 財的福は韓国にみんな集まるべきであっ た。しかし、ある一つの責任を果たし得 ないがゆえに、韓国動乱におきましてそ の財が日本に移った。花婿が隣のその花 嫁に対して自分のすべての宝を授けて いった状態である。しかしいずれ合わな ければならない。そういう摂理上の意味 があるというんですね。 p. 281



IV. 限界意識のスピリチュアリティ

◇セルフヘルプ運動の展開

- ◎典型的にはA.A. アルコホリック・アノニマス
- ◎1930年代にアメリカで始まる。 が、1980年代以降に拡大。
- ◎日本では、90年代以降。
- ◇宗教という自覚をもたない。 スピリチュアリティを重視。



1995年

1996年

◇前向きのスピリチュアリティ/限界意識のスピリチュアリティ ◇スピリチュアルペインの自覚から始まる。

AA (アルコホリック・アノニマス) の12ステップ

1. われわれはアルコールに対して無力であり、生きていくことがどうにもならなくなったことを認めた。

- 2. 自分自身よりも偉大な力が、われわれを正気に戻してくれると信じられるようになった。
- 3. われわれの意志と生命を、自分で理解できる神、ハイヤー・パワーの配慮にゆだねる決心をした。
- 4. 探し求め、恐れることなく、生きて来たことの棚卸表を作った。
 - 7. 自分の短所を変えて下さい、と謙虚に神に求めた。……

☆私も参加者の一人として、最後に発言する。その時は、その日のセッションで得た「私の感動」についてだけ話す。それから皆で立ち上がって、「セレニティ・プレイヤー(平安の祈り)」を唱和して終わる。 (斎藤学『魂の家族を求めて』日本評論社)

☆セレニティ・プレーヤー(平安の祈り)

神さま私にお与え下さい

自分に変えられないものを受け入れる落ち着きを変えられるものは変えていく勇気を そしてその二つのものを見分ける賢さを

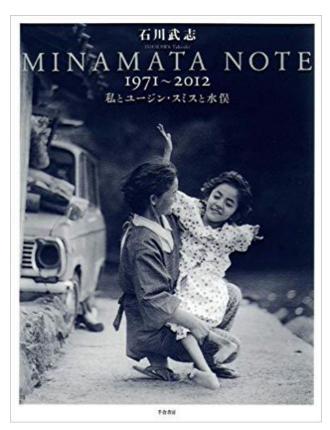
☆限界意識の重要性。明確な限界意識をもつことがスピリチュアリティの基盤になる。これは**宗教のなかのスピリチュアリティの特徴の一つでもある。**

◇医療系やアカデミズムで探求・実践されるスピリチュアルケアは、癒しのスピリチュアリティ・限界意識のスピリチュアリティ・宗教のなかのスピリチュアリティと関わり、公共的責任を重視しつつ展開。

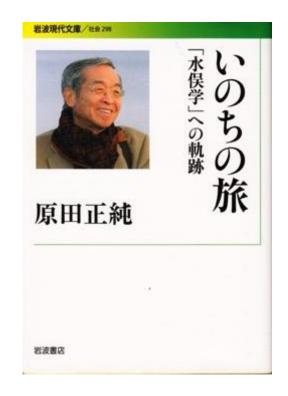
水俣病運動のスピリチュアリティ



原田正純『宝子たち―― 胎児性水俣病に学んだ5 0年』弦書房、2009 年



石川武志『MINAMATA NOTE 1971-2012——私と ユージン・スミスと水俣』 千倉書房、2012年



原田正純『いのちの旅 一一「水俣学」への軌 跡』東京新聞出版局、2 002年、岩波書店、2 016年 「ある日「お母さんも大変でしょう」と言ってみた。すると「何の何のこの子のおかげで頑張れるとですよ」という返事が返ってきた。そして、いつも頰ずりしながら「この子は宝子ですたい」と言うのが口癖だった。(同、13-14頁)

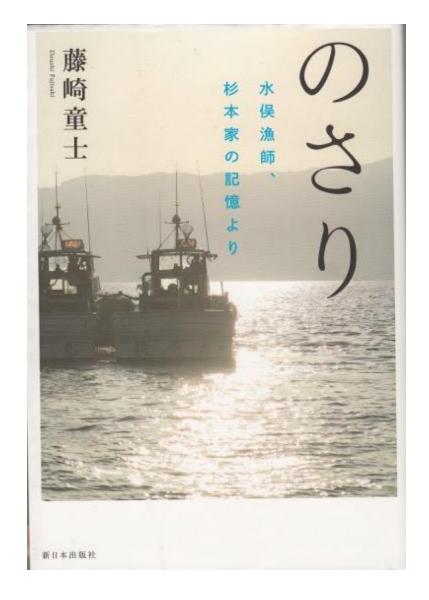
宝子という理由はいくつかあった。母親に言わせると「この子がわたしの食べた水銀を全部吸い取って生まれてきてくれたので、わたしも(この子の)妹や弟たちも元気でおられます。この子が一人で水銀を背負ってくれたのでわが家の大恩人です。それに、わたしはこの子の面倒で手いっぱいで他の子の面倒は見てやれなかったとです。それでも他の子たちはこの姉を見て育ったために自分のことは「自分でする、お互い兄弟姉妹が助け合う優しい子どもに育ってくれました。これもこの子のおかげです」。わたしは声も出なかった。」(『いのちの旅』15ページ)

智子さんを写したユージン・スミスの広く知られた作品がある。**公** 害教育に熱心な水俣高校の教員がクラスでこの写真を示して、「いか に環境問題が大切か、環境を護らないとこのような不幸な子どもが生 まれる」という話をしたことがある。その教室に智子さんの一番下の 妹がいた。そして手をあげて、「その写真は私の姉です。姉のことを そんな風に言わないでください」と泣きながら発言したという。「こ の教師は頭をガーンと殴られた感じがしたと言います。」「この教師 は一から出直そうと考えました。わたしにとっても今までの水俣病の 反公害キャンペーンを考え直す一つの契機になりました。|

母親の良子さんも「誰の責任でこんなことになったかをはっきりさせて、チッソに正面からぶつかってもらいたいと思います。……何からいうていいかわからなんぐらいはらがたつとです」と言う。公害の責任をうやむやにしてはならない。

しかし、そのことが障害を持っている人々の存在をも否定すること、 差別になってはならない筈です。わたしも含めて反公害運動は障害を もつことは不幸だと決めつけてはいなかったでしょうか。何故不幸か、 なぜ不自由なのかということに一歩踏み込んで考える時が来ているよ うに思えます。/そしてユージンが撮ったあの「母子像」はついには 封印されました。(27頁)

1996年、東京で開かれた水俣フォーラムは大きな意義があった。 都で象徴される現代社会への抗議行動でもあった。会場も熱気に包まれていた。しかし、そこにあの「母子像」が氾濫していた。ポスターが壁から落ちて踏みつけられていたりもした。原田を含め、何人もの水俣病を知る人が顔をしかめた。そして、上村夫妻は、ユージンの妻のアイリーンさんに「智子はもう十分働いたから、静かに寝かしてもらえんでしょうか」と頼んだ。アイリーンさんも同意した。以後、あの「母子像」は再び新たに印刷されることはなくなった。



藤崎童士『のさり――水俣漁 師杉本家の記憶より』新日本 出版社、2001年



不知火海と御所浦島を臨む高台で談笑する。右は萩嶺浄円さん(水俣市ボランティア連合協議会会長)、次いで水俣病患者で語り部の杉本栄子さん(1995年、水俣市)

社会福祉法人 照徳の里 精社会福祉法人 照徳の里 精神障害者 生活訓練施設 まどか園

神障害者生活訓練施設まどか園

理事長 萩嶺浄円(浄土真宗本願寺派本昭寺)

水俣病と杉本栄子さんの経験「村の役員連中がやってきて、「あんたげん母ちゃんばマンガン病ちで、家の戸を全部閉めてくだんまっせ」と言う。胸の内で「なして閉めんばんとか?」(閉めなくてはいけないのか)と思っていると、通りがかりの家族どうしのように親しかった村人たちの声が聞こえる。「なして村に迷惑するような病気に罹ったいや?」、「もう今から、金輪際、この道を歩くなぞッ」――この言葉で栄子は、自分たちは「一人転び」(村八分)にあっているのだということがはっきり分かったという(『のさり』96ページ)。

翌日から**父と娘は村の表道を避け、鎌を持って草を払いながら母がいる病院の隔離病棟に通うようになった**。やがて父も娘も水俣病の症状に苦しむようになる。そんななかでも、流産の後、子どもが生まれる。ところが、**長男が生まれたので孫に会いたいと、病院から一時的に帰ってくる母が、隣のおじさんに崖から突き落とされるということまで起こった。**」(島薗「ふるさとと神仏のゆくえ」26『地域人』第26号)

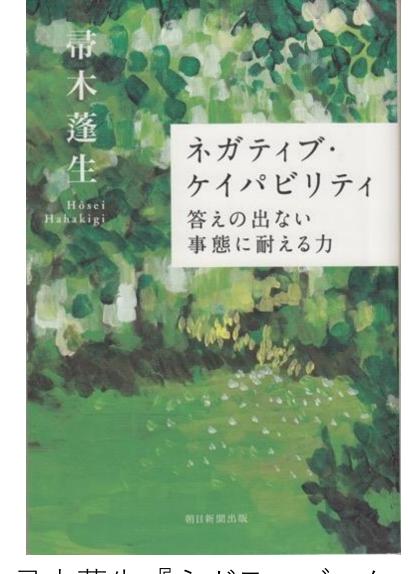
石牟礼道子

| 人間たちが義理や人情を失い、絆をなく し、信義や徳をなくし、神も仏も見失って、 この世は滅亡寸前と思われるこの時期に、 現代の病いをわが身に引き受けた人の覚悟 が、このような言葉となって出て来ました。 栄子さんの言葉は、観音さまか菩薩さまの 声かと思います。……私も栄子さんの心に 一歩でも近づけるように、考え考え、書こ うとしております。

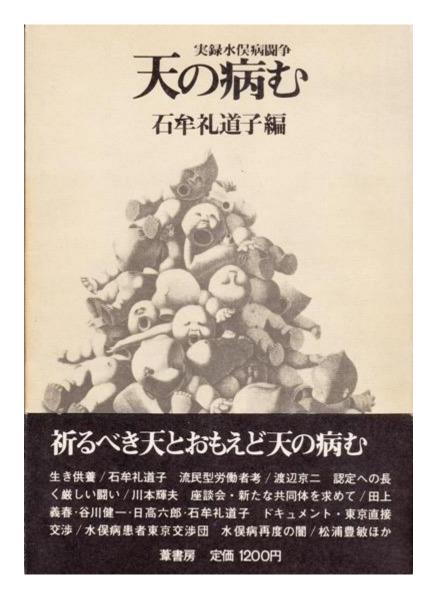
茂道の観音さま 栄子さんへ

2011年2月26日

(『魂うつれ』45号、2011年)



帚木蓬生『ネガティブ・ケイパビリティ一答えの出ない事態に耐える力』朝日新聞出版、2017年





新版

1974 1976

「本願の会」と「魂石」

緒方正人「本願の会という小さな集まりを作って、「魂石 | ――野仏 さんを刻んでその埋立地に置いていこうということです。それは私た ちの自覚のしるしでもあるわけです。終わりきれないところを、ずっ と向き合っていきたいし、それが私たちの今いちばん大きな課題であ ると思っています。**/その本願とは、大いなる自然の命に繋がる、そ のことに目覚めるということだと私は思います。……**共に命としてあ らんことを願うというふうで、**その願いは、実は私たちの方にかけら** れている。私たちが願っているということだけでなくて、おそらく、 **私たちの方にかけられた願いだろうと思います。**(緒方正人『チッソ は私であった』葦書房、2001年、155-156ページ) エコパーク水俣(1990年)、本願の会(1994年)、2017 年の時点で52体

◇欧米的文脈での「死生学」

Death Studies, Thanatology=「死生学」

- ◇ホスピス運動と死にゆく人への関心(どのようなスピリチュアリティ?)
- シシリー・ソンダースと聖クリストファー・ホスピス(1967)
- E・キュブラー・ロス『死の瞬間』読売新聞社(原1969)
- レイモンド・ムーディ『かいまみた死後の世界』評論社(原1975)
- ●デス・エュケーション=「死の準備教育」
- ◇死別の悲しみを癒す(グリーフケア、死生学の内のこの要素の大きさ?)
- ●ダギーセンター(1982年)死別を経験した子供のための心のケアセンター
- ●ダグ・トゥルノ君(13歳で腫瘍で死亡)
- へベリー・チャペル夫人
- ◎これらは新たな限界意識のスピリチュアリティと新たなケアの文化の台頭と捉えることができる。